

【一】 次の文章を読み後の問いに答えなさい。

整理された切れ味のいい発言

私たちが陥りやすいあやまりに、コメントという言葉に対する勘違いがある。通常、対話のあらゆる発言をコメントと言ってしまう傾向がある。しかし、ここで言うコメントとは、相手が話したことや映画、演劇、音楽を鑑賞したあとや、事件などがあつたあと、それに対してひと言、ふた言言う¹切れ味のいい発言のことを指す。

たとえば、スポーツの解説者が「今のプレイはいかがでしたか」と聞かれたときに、ポンとひと言言う短い発言がコメントで、あまり長いものはコメントとは言わない。「質問力」でいえば、ズバリと本質をつく具体的な質問がコメントになる。

テレビのスポーツ中継やワイドショーでもそうだが、解説者やコメンテーターと言われる人々は、あるプレイや事件について、適当なひと言を言っていく役割を果している。そのとき視聴者が求めているのは、そのプレイや事件がどういふものなのかを整理して言ってもらふことだ。

生の素材をそのまま投げ出されても、視聴者はどうしていいかわからない。しかしそれを整理してもらい、ひじょうに気の利いたコメントをしてくれると、新しい見方もできるし、ある程度妥当なことを言ってもらふと「ああ、そりやそうだよな」とナットクする。コメントとは認識や経験を確認するための補助である。つまりある事柄に対して、それをまとめるための結晶化作用としての言葉である。

A、「コメントを求められたら、自分のシソウを延々と語るのではなく、「それはどういふものか」という問いに答える整理された言葉を言わなければならない。長々と説明するよりは、ひと言で「なるほど」と思わせるような、見方が鋭い、本質をついた言葉を発する必要がある。

つまりコメントとは短いことが重要だ。原稿用紙400字というのはもうコメントとは言わない。

²ダラダラ話すのではなく、ひと言、ふた言言った言葉が相手にしっかり入っていくのがコメントだろう。

コメントとは流れに杭を打つようなもの

B、コメントはその内容もちろんだが、タイミングもひじょうに重要だ。急なタイミングで聞かれたときに、^{注1}当意即妙に答えるというその^{注2}レスポンスがコメントにとつては生命線だ。テレビや電話やインターネットがなく、情報網がそれほど発達していない頃は、瞬時にレスポンスを返さなくても、時間をもらつて調べあげて、解説すればそれでよかった。**C**、今は即時性、即応性が求められている。

時間がたつてから「あのとき言い忘れたのですが、これはこうです」と言つたところで、たとえその内容がどんなに素晴らしくても、コメントの持つ意味は薄れてしまう。

その点では³コメントは流れに杭を打つようなものとも言える。対話はどんどん流れていくものだが、流れていつてしまったときに、その時間は楽しかったが、いったい何が残つたのかよくわからないというのが日常の会話だ。

もしもそのとき、「あの言葉、なかなか**C**印象的だったね」というものを、効果的にそのタイミングで

残しておくことができれば、たとえ自分の名前は忘れられてもコメントだけは生き残っていく。この人と会つて何か得たという印象を、コメントによつていつまでも相手の記憶の中に刻んでおくことができるのだ。

周りを見回してみても、この人はいつもみんなとちよつと違つたことを言うな、という人がいれば、意見を聞いてみたくなる。同じ映画を見に行つても、みんなと見る視点が違い、角度のある切り口のコメントをする人がいれば、「ああ、そういう見方もあるのか」と新しい視点が見えてくる。

D、社会生活においても、私生活においても、オリジナリティのある「コメント力」はかなり重要だということがわかる。^Dカチがある解説やコメントは、物事や事象に対して新鮮な見方を示してくれるのだ。

世の中を見る観察眼を鋭くしてくれるもの

会社でのディスカッションはもちろん、友達同士がしゃべっているときでも、面白いコメントを言う人のところには人が集まってくる。「コメント力」は人間的な魅力の大きな部分を占めると言つてよい。

コメントをしつかり言おうと心がけていると、世の中を見る目が変わってくる。ただぼおつと見過ごしてしまふようなことでも、できるだけいいコメントをしようと思うと⁴物事をしつかり観察するようになるだろう。端的な例でいうと、女性とデートする場合がそれに当たる。会つたときに、女性の外見が変化していれば、男性は必ずコメントを言わなければならない責任がある。だから、その人のヘアスタイルなり、ファッションなり、見落としがないようにすみずみまでチェックするようになる。

しかし、悲しいかな、日本の男性の中には気が付いていても口に出さない人がいる。これはコメントをする体質になっていない人である。男たるものの、いちいち細かいことにコメントしないという戦前の男の体質をそのまま受け継いでしまつているのだ。

だが、今の女性でそれを喜ぶ人はほとんどいないだろう。男性のために、ヘアスタイルなり、ファッションなりにお金をかけ、かつ若干の不安を抱きながら変えているのだから、一番努力したその部分に何かひと言がほしいわけだ。それなのに、何も言わないということは、コメントの責任を放棄していることになる。**【I】**

さらに悪いのは、そもそも変化に気づかない男がいることである。私もどちらかというと⁵そのタイプなのだが、そういう人は何でもいので必ずコメントする習慣をつければいいのだ（と親切な友人がアドバイスしてくれた）。**【II】**

デートのときに女性の服装やヘアスタイルについて、必ず何か言うように心がける。**【III】**服のデザインが今一つだ、と思つても、色をほめるとか、とにかく何でもいから何かを見つけてほめるのだ。そうすることで、それがなければ見落としてしまふようなことにまで気づくようになる。**【IV】**

もつとも、ヘアスタイルがずっと変わっていないのに「その髪型、いいね」と言うのは考えものだ。「この髪型は半年前からずっとこうなのよ。今日は口紅を変えてきたのに」といわれたら、これはもう^{注3}やぶへびになる。コメントをするには、変化や違いについて敏感にならなければならない。**【V】**つまり「コメント力」という言葉を意識することによつて、現実を見る目が繊細になつてくるが、その繊細さはとくに違いについて敏感になる必要がある。逆に言えば以前とは何が違うのか、その違いを

指摘するだけでコメントになる。コメントは比較して違いを言うことが一番簡単である。

注1 当意即妙：その場に応じてすばやく機転を利かせること。
(齋藤孝『コメント力 「できる人」はここがちがう』より)

注2 レスポンス：反応、応答のこと。

注3 やぶへび：「藪をつついて蛇を出す」の略。余計なことをしてよくない結果になること。

問一 二重傍線部A「ナットク」、B「シソウ」、D「カチ」をそれぞれ漢字に直し、C「印象」の読み方をひらがなで記しなさい。

問二 空欄A、Dに入る最適な言葉を次の中からそれぞれ記号で答えなさい。(同じ記号を二度以上使ってはいけない)

ア つまり イ したがって ウ なぜなら エ また オ だが

問三 傍線部1「切れ味のいい発言」によってどのような効果が得られるのか。その説明として最適なものを次の中から記号で答えなさい。

ア コメントする対象に興味を持つようにうながす効果。
イ コメントする対象をありのままに伝える効果。
ウ コメントする対象の評判をいっきに高める効果。
エ コメントする対象の一般的な評判を示す効果。
オ コメントする対象が何かを分かりやすく示す効果。

問四 傍線部2「ダラダラ話す」とあるが、これと異なる表現を用いたものはどれか。最適なものを次の中から記号で答えなさい。

ア 星がキラキラ光る。
イ 問題をスラスラ解く。
ウ 雷がゴロゴロ鳴る。
エ 彼はボソボソ話す。
オ 肩をグイグイ押す。

問五 傍線部3「コメントは流れに杭を打つようなもの」とはどのような意味か。その説明として最適なものを次の中から記号で答えなさい。

ア コメントは、会話の中で相手に何かしらの印象を残すことができるものだという意味。
イ コメントは、会話の中で自分の存在を相手に印象づけることができるものだという意味。
ウ コメントは、タイミングが良ければ相手に感動を与えることができるものだという意味。
エ コメントは、相手に自分のオリジナリティを感じさせることができるものだという意味。
オ コメントは、相手に強い印象を与えて会話の流れを止めることができるものだという意味。

問六 傍線部4「物事をしつかり観察する」とあるが、その際に必要になるものは何か。解答欄の「こ」とに続くように、これより後の本文中より十一字で抜き出しなさい。(句読点や記号等も字数に含むものとする)

問七 文中からは次の文が脱落している。補うのに最も適切な位置を文中の【Ⅰ】【Ⅱ】【Ⅲ】【Ⅳ】【Ⅴ】の中から選び、記号で答えなさい。

【脱落文】これが「コメント力」の大きな効果だろう。

問八 傍線部5「そのタイプ」とあるが、それが示す内容を解答欄の「タイプ」に続くように、本文より十字以内で抜き出して答えなさい。(句読点や記号等も字数に含むものとする)

問九 本文の内容として正しいものには○を、誤っているものには×を記して答えなさい。ただし、すべて同じ記号で答えた場合は採点の対象としない。

ア 短いコメントであれば相手に好印象を与えることができる。
イ 上手なコメントは、時によって新たなものの見方を示してくれる。
ウ コメントのあり方は、社会の状況によって変化するものである。
エ 人間的な魅力を備えていなければ、よいコメントをすることはできない。
オ 筆者のいうコメントとは、ただ発した言葉ではなく、意識的に発する言葉である。

二 次の文章を読んで後の問いに答えなさい。

広瀬くんがAをのむのがわかった。1やつと気づいてくれたのだと思う。
わたしたちが、広瀬くんのためにどんなに一生懸命になってたかってことに。
みんなはわたしのAムチャな頼みだって、嫌がらずに手伝ってくれた。それはきつと、広瀬くんにはやく元気になってほしいからだ。

「広瀬くん。その男の子は自分で飛びおりたんだよね……。高台にのぼって、柵を乗り越えて……。ひとりで飛びおりたんだよね……。」

わたしは思いきっていった。

広瀬くんは、それでもわずかに首をふり、なにかをいい返そうとした。でも、あきらめたのかBを落とし、じつとわたしを見た。

「やつぱり、佐々野さんはすごいよ。気づいちやうなんて……。」

つらそうな表情のまま、広瀬くんはそこにいるみんなを見回した。

「お願いだよ、2このことは黙ってほしいんだ。あいつにとつては、自分で飛びおりたとかより、おれに突き落とされたってことにしてたほうがいいんだって……。自分のしたことで周りに責められたら、あいつ、ものすごくつらいだろうなあって思うんだ……。」

やつぱりそうだった。

広瀬くんは友だちをかばってうそをついていたんだ。自分のことより、その子のことを考えていたん

だ。

「勘違いしないでくれよ。おれ、みんなが考えているようないいやつじゃないよ……。おれ、ずっとあいつのことを軽く見てたんだよ。自分のほうが上だって心のどこかでばかりにしていたんだよ。」

³ 玄関のドアが開き、お母さんらしい人が顔を出した。

けれど、「いいから。」と広瀬くんがうなずいてみせると、お母さんは少し戸惑^{とまど}っていたようにだけど、そのままドアを閉めてくれた。

「運動公園での試合が終わったあとで、おれ、負けたのが悔しくてあいつを非難したんだ。おまえが、もつとちゃんとプレーしてくれたら負けなかったって。お前はサッカーなんて向いてないんだって。けど、それってただの八つ当たりだったんだ……。」

広瀬くんの声は震えていた。

「そのあとで、あいついなくなっちゃって、さがしに行ったら、高台にあいつが立ってるのが下から見えて……。声をかけるまもなかった。あいつ飛び降りたんだ……。」

みんなが **A** をのむのがわかった。

「おれ、本当はあいつを押していない……。でもさ、考えてみれば、ひどいことって、あいつを追いつめたおれだし、結局、同じようなことをしたんだよ。だから、あいつが飛びおりたのは、おれのせいなんだ……。」

「そんなことない……。ぜったい、そんなことない……。」

強い口調でわたしは **B** ヒテイした。このことだけは、なんとしても広瀬くんにわかってほしいと思った。

広瀬くんは自分を強く責めている。

だから、その ⁴ 罪の意識から、管理人のおじさんに聞かれたとき、やつてもいないことをやったといってしまったのだろう。うそをついてしまったのだろう。

そして、そのほうがそのチームメートにとってはいいんだと思いこんで、ずっと、うそをつき通していたのだろう。

「あいつ、自分が飛びおりたって、ちゃんと **C** ケイサツとか自分の親とか、学校の先生たちにも話したんだよ。そういうやつなんだ……。」

やつぱり……。だから、広瀬くんは責められることはなかったんだ。周りの大人たちは本当のことを知っていたんだ。

「おれが突き落としたってうわさが広まったけど、おれはそのままでもいいと思ったんだ。こっちに引越すことが決まってたし、もうかまわないって思ったんだ。いまさら本当のことをいって、あいつを追いつめたくなかったし……。」

「でも……このままにしてたら、いけないと思う。ちゃんと話して……みんなの **D** 誤解をとかなきゃ。」広瀬くんは首をふった。

「転校してきたときから、自分はひとりでいようと思っていたから……。友達はできなくてもいいって思ってたから。また、誰かを傷つけることになったら困るからさ……。でも、みんなに責められたら、やつぱりつらくなって、**C** 学校を休んじやったけどさ。だけど、もう大丈夫だから……。」

「そんなの、ぜんぜん大丈夫なんかじゃないよ……。」

どうしても広瀬くんに伝えなかった。

「あのね……傷ついてつらい目にあうのは、広瀬くんだけじゃないよ……。⁵ クラスのみんなだって、同じようにつらい思いをするんだよ。だって、みんないい子なのに、それなのにクラスの友だちの悪口ばかりいうようになって……。」

声が震え、まるで自分の声じゃないみたいだった。わたしの様子に気づいたのか、真理子ちゃんが、思い出したように助け船を出してくれた。

「ほら、香菜ちゃん、あの話もしてあげてよ。ビブスの話。」

ああ、そうだ。そのことも話しておかなきゃ。そうすれば、広瀬くんの気持ちが少しは楽になるかもしれない。

「あのね、広瀬くん……。その男の子、草地に倒れてたとき、手にビブスをにぎってたんだよね……。」

「え？ どうして知ってるんだ？」

「うん……。みんなで管理人のおじさんに聞きにいったとき、おじさんが、そういえば……教えてくれたから……。」

横で真理子ちゃんが **D** うなずいている。

ビブスというのは練習試合のときにつけるチームわけのベストのことだった。そのことをわたしに解説してくれたのが真理子ちゃんだった。

「もしかしたら……その男の子、飛びおりるつもりはなかったのかもしれない……。」

広瀬くんが驚いた顔をした。

「城跡の高台って……すごく風が強かったんだよ。もしかしたら……男の子は持っていたビブスを風にとばされたのかもしれない。だって、試合のあとすぐにいなくなっただんなら、ビブスを持ってたはずだし……。」

「わたしも帽子をとばされそうになったんだよ。あの高台で」

ひかりちゃんが待つてましたとばかりに声をあげた。

「風でとんでいったビブスは……柵の向こう、崖^{がけ}の近くまで飛んでいったのかもしれない……。だから、男の子は柵を乗り越えて崖に近づいていった……。そして、ビブスを拾い上げたたん、足をすべらせたのかも……。」

もちろん、それはわたしたちの都合のいい想像^{そとうぞう}なのかもしれない。

男の子はビブスを持ったまま飛びおりたのかもしれないし、ビブスを拾い上げた瞬間に飛びおりようと思ったのかもしれない……。

広瀬くんのことだから、きっと自分に都合のいい想像はしないと思う。

でも、⁶ 男の子がビブスを持っていたという事実が、どこかで広瀬くんの心の救いになってくれればとわたしは願った。

広瀬くんは口をきつく閉じ、ことばを失っていた。

たぶん見るに見かねたのだろう。急に岸本くんが大声をあげた。やさしいんだなあって思った。

「ビブスなんてどうでもいいんだよ、広瀬！ おまえ、なに **E** 黙^{もく}ってほしいとか、かっこつけてんだ

よ。おかげでこっちはもう、無実のやつに悪口いったみたいで、めちやくちやかっこわるかったんだぞ。それに、だいたいなんだよおまえ、友だちはできなくなつていいなんて、悲劇の主人公みたいなこというなよな！ おれたち、もうおまえと友だちになつてんだぞ、なー！」

岸本くんは周りにいた男子に怒つたように声をかけた。

「そうだ、そうだ！」

「おまえ、昼休みのサッカーのメンバーなんだからな！ いまさら、抜けだすなよ！」

戸田くんも田島くんも、声をあげた。みんなの顔には笑みがうかんでいた。腹を立てているというよりも、うれしくてたまらないという様子だった。

広瀬くんはいきなり自分の顔をごしごしとこすつた。

「みんな、ごめん……。」

そして、みんなが心配するくらい長い間、頭を下げ続けた。ようやくあげた広瀬くんの目はどこことなくうんで見えた。**E** 広瀬くんは、泣いているのを一生懸命にごまかそうとしていたのだと思う。

「わかつたら、月曜日にはぜつたいに学校に出てこいよな！」

涙のことは知らんぷりして、岸本くんがまた騒々しい声をあげた。

「広瀬、おまえも今、聞いただろ？ おれたちなんか、教室でも、城跡んどこでも、そんで今もまた聞いたんだぞ。佐々野がこんな話すなんてめつたにないんだからな。間違いなく、佐々野は佐々野の十年分くらい話したんだからな。これでいうこと聞かなかつたら、おれたちみんな許さないからなー！」

広瀬くんがクスリと笑い声をあげた。

わたしは急に恥ずかしくなつて、自分の顔が赤くなるのがわかつた。でも、よかつた。本当によかつた。

これでまた、いつもの素敵なクラスにもどれる。そうわたしはかたく信じた。

(福田隆浩『香菜とななつの秘密』より)

問一 二重傍線部A「ムチャ」、B「ヒテイ」、C「ケイサツ」をそれぞれ漢字に直し、D「誤解」、E「黙(つて)」の読み方をひらがなで記しなさい。

問二 空欄A、Bに入る最適な語を次の中からそれぞれ記号で答えなさい。(同じ記号を二度以上使つてはいけない)

ア 涙 イ 腕 ウ 息 エ 肌 オ 肩

問三 空欄C、D、Eに入る最適な言葉を次の中からそれぞれ記号で答えなさい。(同じ記号を二度以上使つてはいけない)

ア すこしも イ すやすやと ウ つい エ しきりに オ よほど

カ きつと キ てきばきと

問四 傍線部1「やつと気づいてくれた」とあるが、広瀬くんは、わたしたち(香菜たち)の何に気づ

いたのか。その説明として最適なものを次の中から記号で答えなさい。

ア 広瀬くんにはやく元気になつてもらいたいということ。

イ チームメートの男の子と仲直りをしてほしいということ。

ウ 公園の管理人のおじさんに、広瀬くんの無実を訴えたということ。

エ 広瀬くんの行き過ぎた行いを反省してもらいたいと思つてゐること。

オ 香菜だけが気付いた広瀬くんのうそをみんなに知られてしまったということ。

問五 傍線部2「このこと」とはどういうことか。その説明として最適なものを次の中から記号で答えなさい。

ア チームメートの男の子は試合に負けた悔しさで自分を見失つていたということ。

イ 冷静な分析力を持つ香菜に広瀬くんがずる休みをしていることを見抜かれたこと。

ウ チームメートの男の子が崖から落ちたことが広瀬くんのせいではないということ。

エ チームメートの男の子が崖から飛びおりたのではなく、広瀬くんが崖から飛びおりたこと。

オ クラスのみんなが風邪で学校を休んでいる広瀬くんを気づかい自宅までお見舞いに来たこと。

問六 傍線部3「玄関のドアが開き、お母さんらしい人が顔を出した。」とあるが、このことばの前後のつながりから考えて、お母さんはどのような気持ちであつたか。最適なものを次の中から記号で答えなさい。

ア 歓迎 イ 怒り ウ 喜び エ 不満 オ 心配

問七 傍線部4「罪の意識」とあるが、ここでの広瀬くんの気持ちを説明したものとして最適なものを次の中から記号で答えなさい。

ア サッカーの練習試合で負けたことの原因をチームメートの男の子に押しつけ、そのことで引つ越しをしなければならなくなり、後悔をしているということ。

イ サッカーの試合のあとにチームメートの男の子を連れ出し、崖から突き落としたと公園の管理人のおじさんに嘘をついたことを反省しているということ。

ウ サッカーの練習試合で負けたことの原因が自分にあるにもかかわらず、それをチームメートの男の子のせいにしてしまい、後悔をしているということ。

エ やめたくなかつたサッカーをチームメートの男の子のせいでやめなければならず、その男の子を逆恨みしていたことを後悔しているということ。

オ サッカーの練習試合で負けたことをチームメートの男の子のせいにしたことで、その男の子を追いつめてしまい、責任を感じているということ。

問八 傍線部5「クラスみんなだつて、同じようにつらい思いをするんだよ。」とあるが、クラスみんなが、つらい思いをしたことがわかる一文を、この傍線部のある会話文よりあとの、クラスメートの会話文のなかから抜き出し、はじめの五文字を書きなさい。(句読点や記号等も字数に含むも

問九

自分の大好きなチームのビブスを持ったまま崖から落ちるなんてサッカーをやる資格がないという見方。

ウ　ビブスを手に持つて崖から飛びおりることなど普通はしないので、崖の上から飛びおりたようによそおったのではないかという見方。

オ 自分のビブスを持ったまま、自分から崖の上から落ちることではいやみを言った広瀬くんに思い知らせてやろうとしたのではないかという見方。

問十

ア　ふだんは人前でよく話す香菜ではあるが、クラスメートから無理やり広瀬くんを説得してくれと言われ、しどろもどろになりながら話を続けようとしている。

工　ふだんはクラスメートと言も話さない香菜ではあるが、自分で広瀬くんに話をしようと思ひたので、ことばがうまくつながらなくても仕方がないと思ひながら話している。

《以下余白》

氏 名

--	--

問九	問八	問七	問六	問五	問四	問三	問二	問一
ア							A	A
イ							B	B
ウ							C	
								C
エ							D	
								D
オ	タイプ		こと					
								-

[illegible][illegible]